

普及活動情勢報告（平成28年6月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

共同管理で青ネギ栽培の技術向上 ～JA 土佐香美洋菜部会青壮年部～



8月収穫に向け実生苗定植

JA 土佐香美洋菜部会青壮年部では、共同ほ場 8a で青ネギを栽培しています。本年度からは、新たなほ場を設け、夏作の拡大を進めており、6月6日には移植機を用いて実生苗を定植し、28年度の延べ作付面積は約 28a となりました。

農業改良普及課では、施肥設計、作付計画、薬剤選定等、若手青ネギ農家の組織強化のため、部員が主体的に活動できるよう、JA とともに支援しています。

ニラ栽培規模拡大に向けた事業説明会



規模拡大補助事業説明会
(野市等南部地区生産者対象)

5月25日にニラ部会員を対象に、規模拡大に向けた補助事業説明会を土佐山田と野市の2会場で開催し、計22名が参加しました。

農業改良普及課では説明会の開催を支援し、説明会後には個別に意向を聞き取りました。

参加者からは、「低コスト耐候性ハウスを補助事業で導入したい」「加工も含めて有利販売に取り組んでは」などの意見が出されました。

今後、農業改良普及課では、ニラ栽培が維持拡大できる仕組みを作るため、補助事業の導入に向けて支援していきます。

集落営農組織の設立推進について（香美市中山間直弘集落協定代表者説明会）



集落協定代表者説明会で説明の様子

5月24日から26日に香美市の3町で中山間直弘の代表者説明会が開催され、66名が参加しました。

農業改良普及課では、集落の現状を整理し、集落営農のイメージ等を説明して組織の必要性について意識啓発を行いました。

会終了後に行ったアンケート調査結果では、多くの方が「集落営農は必要、必要だが難しい」と回答され、回答者の約40%が「すでに取り組んでいる、検討したいので協力してほしい、研修会等に参加して勉強したい」と答えていました。

また、「集落で前向きに話を進めたい」といった相談もあり、今後は集落代表者等へ働きかけて、組織設立に向けて支援していきます。

ニラ調整作業機械化の推進(自動計量結束機導入に向けて)



デモ機を試験導入しての検討会

6月7～10日に、自動計量結束機の導入に向けて試算するため、デモ機を使用して、時間ごとの処理量等のデータを収集し、10日には部会員約10名が参加して検討会を開催しました。

農業改良普及課では、データ収集の支援を行いました。参加者からは、「品種や曲がりによって処理量や時間がどうなのか」「茎の長さは結束に関係するのか」など多くの質問が出されました。

今後、農業改良普及課では、そぐりや計量結束の機械化推進に向けて、ニラ部会の取り組みを支援していきます。

農地を守る仕組みづくりに向けた意識啓発について（香美市香北町日ノ御子集落 中山間直払集会）



中山間直払協定の集会で説明の様子

5月の中山間直払説明会をきっかけに日ノ御子集落協定の代表者から集落営農を進めるための協力依頼があり、6月14日に代表者と打合せを行いました。

その後、6月19日に開催された協定参加者の集会へ出席し、農地や就業者数等の推移を説明し、集落営農について啓発しました（12名参加）。

出席者からは、「今の米価では子へは継がせられない。美味しいお米が採れるので、高く売る方法はないか。」「他集落の取り組み状況はどうか。」などの意見が出されました。

今後は他集落の取り組みも紹介しながら、営農意向調査などを行い、関係機関と協力して集落営農の推進していきます。

南国市 3JA シシトウ部会の合同会議を開催しました！！



産地ビジョン作成に向けた課題の抽出をしています

5月24日、JA 南国市南部営農センターにおいて、南国市 3JA シシトウ部会の部長、女性部役員、園芸連、各 JA 職員が出席し、平成 28 年度の活動計画、産地ビジョンの作成や栽培状況等を情報交換しました。

農業改良普及課は、会議の開催や運営を支援し、シシトウ産地の現状と課題について説明しました。出席者からは産地ビジョンの作成について賛同され、産地拡大の阻害要因について意見交換しました。生産者大会についても議論され、開催に向けて検討することになりました。また、消費宣伝についても「是非やりたい」との意見が出されました。

農業改良普及課は、JA 各部会、関係機関と連携して計画的に活動ができるよう支援していきます。

本気で環境制御技術を普及しよう ～中央東地区環境制御技術推進会議～



地区環境制御技術推進会議から

6月14日、農業改良普及課は、香美農林合同庁舎で、中央東地区環境制御技術普及推進会議を開催しました。農業改良普及課は主催者として、環境制御技術の「重点プロジェクト計画」と炭酸ガス実証の結果、次作の計画について説明しました。

当日は炭酸ガス実証農家、各研究会代表者等生産者、JA、県関係者ら33名が出席しました。生産者からは環境制御技術の普及で、「皆さんの収量を増やし、産地で伸ばしていきたい」「儲かったら次のステップにお金を使うべき」等の前向きな意見が出されました。

農業改良普及課は、構成員の意見を参考にしながら、本気で環境制御技術を普及します。

地下部の環境も見直そう～南国市施設園芸環境制御技術研究会講演会から～



土づくり講演会から

6月10日、南国市施設園芸環境制御技術研究会は、南国市日章福祉交流センターで、肥料会社から講師を招き、土づくり講演会を開催し、生産者（13名）、関係機関など27名が参加しました。

講演では、講師からは分解しにくい有機物の活用方法、土壤還元消毒の仕組み、土質によって分析数値を見分けることなど、農業改良普及課からは土壤消毒のやり方について説明しました。会長からは「炭酸ガス施用等の環境制御技術を入れても、土づくりや土壤消毒を怠ったら失敗する」と指摘し、「地下部の環境改善」の必要性を訴えていました。

農業改良普及課は、今後も研究会・関係機関と連携して講演会や現地検討会を開催し、積極的に情報提供を行います。

みんなでやろう環境制御技術 ～JA土佐香美「環境制御技術普及促進事業」説明会～



事業説明会から

6月9日、JA土佐香美本所で、JA営農経営指導課は、県産地・流通支援課、農業改良普及課と連携して、「環境制御技術普及促進事業」説明会を開催し、ニラ、ピーマン、トマトなどの事業導入意向農家29名が参加しました。

農業改良普及課は、普及推進に向けて主な環境制御機器と導入効果について紹介しました。生産者からは「どのような機種があるかわかった」、「ハウス内の環境を知りたい」、「冬場の収量を増やすために炭酸ガス施用を始めたい」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後、計画的に事業を執行し、管内の環境制御技術の普及を進めていきます。

酒米の実証ほ場で田植えが行われました



酒米品種「吟の夢」の田植えの様子

6月9日、香美市香北町永野の集落営農組合の田で、酒米品種「吟の夢」の田植えが行われました。

香北地域では、昨年度から酒米の栽培を始めており、今年は4戸で取り組むことになりました。しかし、地域に合った栽培方法が確立されていないことから、今年は適正な栽植密度について検討しよう、実証ほ場を設置しました。

農業改良普及課は、実証ほ場の調査などを通して栽培方法を検討し、香北地域の酒米の安定生産に向けて支援していきます。